

県立病院ビジョン(案) 新旧対照表

県立病院が10年後(令和14年3月)までに次のような姿になっていることを目指して、病院事業局職員は一丸となって取り組んでいきます。

分野	新			旧(第1回検討委員会で提示した案)	
	見出し	ビジョン(案)	資料1-1 意見No.	見出し	ビジョン(案)
1 県立病院として必要な医療の提供及び充実	(1) 県全体のセンター的機能の充実	○県全体のセンター的な機能を担う県立病院では、その果たすべき役割、医療従事者の確保・育成、他の医療機関との役割分担、損益に与える影響等を考慮して機能の充実が図られ、医療の質の向上や診療単価及び入院患者の増加につながっている。	1-0-1 1-0-5 1-(1)-1	(1) 中部病院と南部医療センター・こども医療センターの医療機能の集約による医療の充実	○中部病院と南部医療センター・こども医療センターは、重複している機能の整理や地域の医療機関との役割分担により機能集約が図られた結果、県全体のセンター的な機能が増加するなど高度急性期医療が充実し、医療の質の向上や診療単価及び入院患者の増加につながっている。
	(2) 地域の中核病院として必要な医療を提供する体制の充実	○一般医療を担う全ての県立病院では、救急医療、小児・周産期医療などいわゆる不採算といわれる医療や、地域で質的・量的に不足する医療などについて、各二次医療圏の中核病院としての役割を担うための人材、医療機器等が充実している。	1-0-1 1-0-2 1-0-6	(2) 離島の県立病院及び診療所の医療体制の向上	○離島の県立病院及び診療所では、IT技術等の活用による遠隔医療の拡大や、救急医療体制の整備などにより対応できる医療の幅が広がり、離島と本島との医療格差が縮小している。
	(3) 離島診療所の医療提供体制の確保	○離島診療所では、医師、看護師、事務職の勤務負担が軽減され安定的な配置がなされているほか、IT技術等の活用による遠隔医療が普及している。	1-0-4		
	(4) 民間の医療機関では対応の困難な医療を提供する体制の充実	○民間の医療機関では対応することが困難な、難病医療、特殊な精神科医療などに対応するための専門人材や医療機器等が充実している。	1-(5)-1	(5) 精和病院の医療機能向上及び医療環境の改善	○精和病院では、身体精神合併患者など多様化した精神医療のニーズに対応し、県立の精神科病院として必要な医療を担う環境が整備されている。
	(5) 法令等の位置づけがある医療等を担う体制の充実	○災害時の医療や新興・再興感染症の医療に必要なハード・ソフト両面での体制整備が進んでいる。	1-(6)-1 1-(7)-1	(6) 災害時の医療や急患搬送体制の充実	○災害時の医療提供や円滑な急患搬送に必要な体制の整備が図られている。
				(7) 感染症対応力の強化	○新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、新興・再興感染症の発生に備え、感染拡大の状況に応じ対応できる施設・設備や体制が整備されている。
				(8) 地域と連携した在宅医療患者を支える体制の整備等	○県立病院では、地域と連携し、在宅で医療を受ける患者を支える体制や、認知症早期鑑別診断ができる体制が整備され、長期入院患者の減少にもつながっている。
	(6) 高齢化の進展に伴う医療需要の増加等への対応	○各県立病院は、高齢化の進展に伴う医療需要の増加、疾病構造の変化等に対応するために必要な医療機関間並びに保健、医療、介護の関係機関間の協議、連携において、経営、実務双方のレベルでリーダーシップを発揮しており、各2次医療圏においてこのような取組に基づく総合的な対策が講じられている。	1-0-3		
	(7) 県内外の医療機関とのネットワークの充実	○琉球大学病院をはじめ、公民を問わず県内外の医療機関との相互のネットワークが強化されており、地域の医療レベルの向上や人材交流の促進につながっている。	1-0-5	(3) 琉球大学病院や県内外の病院との人事交流及び連携の強化	○琉球大学病院との人事交流をはじめ県内外の医療機関との連携が強化され、医療の提供が充実している。
	(8) 公立沖縄北部医療センター設置に向けた協力及び設置後の連携	○北部病院における医師確保の取組や北部地区医師会病院との連携等により、北部地域の医療の充実が図られている。また、公立沖縄北部医療センター設置後は、同センターと県立病院の医療人材の交流や患者の紹介などが進んでいる。	1-(4)-1	(4) 北部地域の医療体制の充実	○北部病院における医師確保の取組や北部地区医師会病院との連携等により、北部地域の医療の充実が図られている。また、公立北部医療センター設置後は、同センターと県立病院の医療人材の交流や連携が進んでいる。

2-(2)へ

分野	新		
	見出し	ビジョン(案)	資料1-1 意見No.
2 県民・患者の視点に立った医療の提供	(1)患者満足度の向上	○患者中心の安心・安全な医療の提供や、患者の尊厳を尊重した接遇、病院の心地よい環境の整備、待ち時間の減少などにより、患者満足度が向上している。	
	(2)患者支援や地域医療機関等との連携の充実	○各県立病院において社会福祉士や精神保健福祉士の配置など必要な体制が整備され、患者が抱える社会的問題等に対する適切な支援や地域の医療機関との患者紹介・逆紹介等に関する連携等が充実することにより、患者の円滑な入院や転退院、在宅移行につながっている。	1-0-5 1-0-7 1-(8)-1 1-(8)-2 1-(8)-3 1-(8)-4 1-(8)-5 1-(8)-6 2-0-1 2-0-2
	(3)患者の状態に応じて必要な医療が受けられる体制の整備	○離島や北部地域においても患者が、原則、圏域内において必要な医療を受けることができる。また、高度な医療を行う必要がある場合などは、中核となる病院等で治療を受けやすい体制が整備されている。	
	(4)外国人患者の受入体制の充実	○旅行者などの外国人が急病や事故で県立病院を受診する際には、言語、医療費の支払い、感染症対策、家族対応など関係職員の連携体制が構築されているほか、県の外国人観光客に対する施策とも連携し、安心して医療を受けられる体制が整っている。	2-(3)-1 2-(3)-2
	(5)医療等に関する普及・啓発、予防等の取組の充実	○県立病院が有する医療や健康づくりに関する知見を県民へ発信することや、市町村等と協働・連携して普及・啓発、予防等に取り組むことにより、県民の適切な医療機関の利用や生活習慣の改善が図られている。	1-(8)-1

旧(第1回検討委員会で提示した案)	
見出し	ビジョン(案)
(1)診療情報の共有及び患者満足度の向上	○患者へのより良い医療提供の観点から、病院間や患者と診療情報を共有する新たな仕組みが導入されるとともに、病院の心地よい環境(アメニティ)の整備や待ち時間の減少などにより患者満足度が向上している。
(2)患者の状態に応じて必要な医療が受けられる体制の整備	○離島や北部地域においても、患者が、原則、圏域内において必要な医療を受けることができる。また、高度な医療を行う必要がある場合などは、本島の病院で治療を受けやすい体制が整備されている。
(3)外国人患者の受入体制の充実	○外国人観光客が急病やケガで県立病院を受診する際には、多言語に対応できる職員がいるなど、安心して医療を受けられる体制が整っている。

分野	新		
	見出し	ビジョン(案)	資料1-1 意見No.
3 人材の確保・育成及び生き生きと働ける職場づくりの推進	(1)計画的な人材の確保	○沖縄県の医療需要が増加し、労働人口が減少する中において、医師、看護師、コメディカル、事務職等の必要な人材が計画的・段階的に確保されている。	0-0-3 3-0-1 3-0-2 3-0-3
	(2)県立病院の医師の研修プログラムの充実	○県立病院の医師の臨床研修、専門研修について、琉球大学病院や民間医療機関等と連携した研修プログラムが充実し、指導医や症例等が増え、研修環境が改善されている。その結果、県立病院における臨床研修や専門研修の魅力が高まり、研修希望者が増加し、各県立病院や診療所の医師が安定的に確保されている。	1-0-5 3-0-4 3-(1)-1 3-(2)-1
	(3)離島の県立病院を支える人材の育成・確保	○研修システムの充実により離島医療の魅力や関心が高まるとともに、離島勤務がキャリアアップにつながるなどインセンティブが構築されている。その結果、離島の県立病院に勤務する専攻医の育成や、専攻医が県立病院に残ることができる環境が整備されているほか、総合診療医、専門医、看護師、コメディカル、事務職それぞれにおいて離島の県立病院に長期間勤務する職員が増加するなど、離島の県立病院を支える人材の確保につながっている。	1-(2)-1 1-(2)-2 3-0-9 3-0-10 3-(2)-2 3-(2)-3
	(4)看護師、コメディカル、事務職の人材育成の充実	○看護師、コメディカル、事務職の研修等が充実することにより、それぞれが専門的な知識・技術を業務に発揮でき、そのことが適正に評価されている。	3-(4)-2
	(5)キャリア形成支援の充実	○中堅以上の職員が専門性を高めることや、資格や専門性が有効に活用される仕組みの構築、人材育成を担う職員に対する評価など、キャリア形成支援の取組が充実している。その結果、医療の質の向上、就職希望者の増加及び職員の定着につながっている。	3-0-6
	(6)働き方改革への対応	○ライフステージに応じた柔軟な働き方が選択できることや、ITの活用等による事務の効率化、職種を超えたコミュニケーションやテイスカッションの増加、勤務体制の見直し等により職員が働きやすい職場になっており、時間外勤務や離職の減少及び医療の安全性の向上にもつながっている。 ○また、専門的な業務の担い手が増えることによるタスクシフトや、複数主治医制の導入などによるタスクシェアが進展し、職員一人ひとりの業務負担が軽減されている。	3-0-7 3-0-8 3-0-9 3-0-10 3-(4)-1 3-(4)-2

旧(第1回検討委員会で提示した案)	
見出し	ビジョン(案)
(1)臨床研修医の継続率向上による専攻医の増加	○医師の臨床研修、専門研修について、各県立病院で研修環境の改善が図られたほか、琉球大学病院との連携により症例数や経験できることが増加し、医師の様々なニーズに応えられる環境が整うことにより、臨床研修医の継続率が高まり専攻医が増加している。
(2)離島の県立病院を支える人材の育成・確保	○研修システムの充実により離島医療の魅力や関心が高まるとともに、離島勤務がキャリアアップにつながるなどインセンティブが構築されている。その結果、離島の県立病院に勤務する専攻医の育成や、専攻医が県立病院に残ることができる環境が整備されているほか、全ての職種において離島の県立病院に長期間勤務する職員が増加するなど、離島の県立病院を支える人材の確保につながっている。
(3)人材育成とキャリア形成支援の充実	○人材育成や臨床研究を総合的に支援する体制や、中堅医師が先進医療を学ぶことを支援する体制などが整備されるとともに、資格や専門性が有効に活用される仕組みの構築や人材育成を担う職員に対する評価など、キャリア形成支援についても充実している。その結果、魅力的な職場環境が形成され、就職希望者の増加及び職員の定着につながっている。
(4)働き方改革への対応	○ITの活用等による事務の効率化や、職種を超えたコミュニケーションやテイスカッションの増加、勤務体制の見直し等により職員が働きやすい職場になっており、時間外勤務や離職の減少及び医療の安全性の向上にもつながっている。

分野	新		
	見出し	ビジョン(案)	資料1-1 意見No.
4 安定した経営 及び適切な投資	(1)人材の確保等による経営改善	○医療や病院経営を支える人材の適正な確保が病院の収益向上に貢献しているほか、経費節減、未収金減少等の取組により、安定的に経常黒字が達成でき、必要な施設・機器等の投資に充てる資金が確保されている。	0-0-3 4-(1)-3
	(2)病院の経営基盤の強化	○リーダーシップやマネジメント能力を発揮できる人材や診療報酬制度に精通した職員が増え、経営改善について多職種で構成される推進体制が構築されることなどにより、病院の経営体制が強化されている。 ○また、全ての職員が経営に対する意識を持ち、各セクションごとに達成目標に向けた取組を行うなど、経営改善に対するモチベーションの高い組織になっている。 ○さらに、経営判断に必要な県立病院の医療や財務等に関するデータ分析を行う体制が充実し、的確な経営判断に資するとともに、可視化されたデータに基づき病院の経営に関する県民等への説明が十分になされ、理解が得られている。	4-(1)-1 4-(1)-2
	(3)県立病院間の機器等や業務手順の標準化	○県立病院及び診療所間において、電子カルテシステムや医療機器、基本的な業務手順等の標準化が図られておりコスト削減につながっているほか、職員がどの県立病院でも標準的な医療を提供でき、効率的に業務が行われている。	3-0-5
	(4)着実にビジョン等を実現する体制の構築	○県立病院ビジョンやそれに基づく計画等を着実に推進し、実現させるため、各病院及び本庁機関において、進捗管理等の体制が構築されている。	0-0-1

旧(第1回検討委員会で提示した案)	
見出し	ビジョン(案)
(1)収益向上等による債務の解消及び投資資金の確保	○収益の向上、経費の節減、未収金の減少等により安定的に経常黒字を達成し、債務が減少しており、必要な施設・機器等の投資に充てる資金が確保されている。
(2)病院の経営体制の強化	○リーダーシップやマネジメント能力を発揮できる人材や、診療報酬制度に精通した職員が増え、病院の経営体制が強化されている。また、全ての職員が経営に対する意識を持ち、各セクションごとに達成目標に向けた取組を行うなど、経営改善に対するモチベーションの高い組織になっている。
(3)電子カルテシステムや医療機器等の統一化	○県立病院間で電子カルテシステムや医療機器、資機材が統一されており、業務効率化及びコスト削減につながっている。